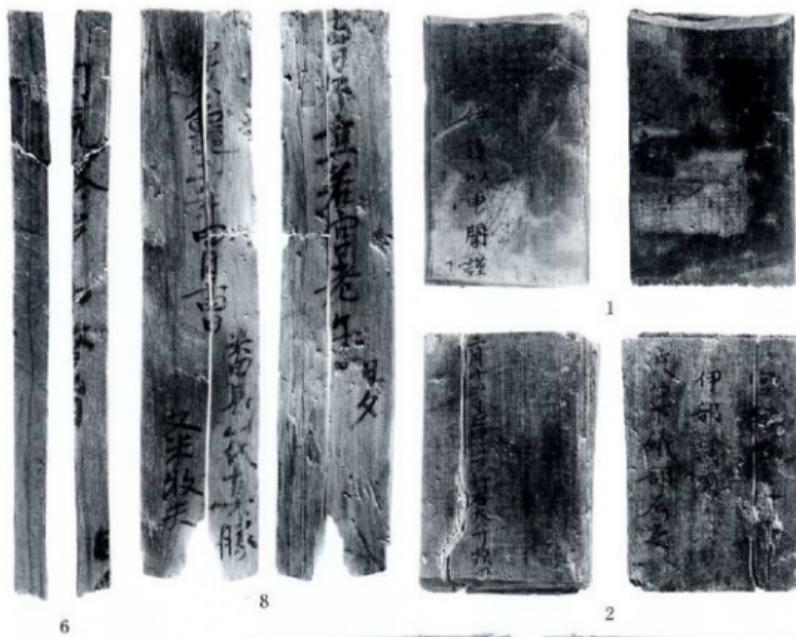


二〇〇九年十一月

平城宮發掘調査出土木簡概報(三)

付 平城宮發掘調査出土木簡概報(三)訂正

奈良文化財研究所





33



3



17



5

(1 : 2, 5のみ1 : 3)



16



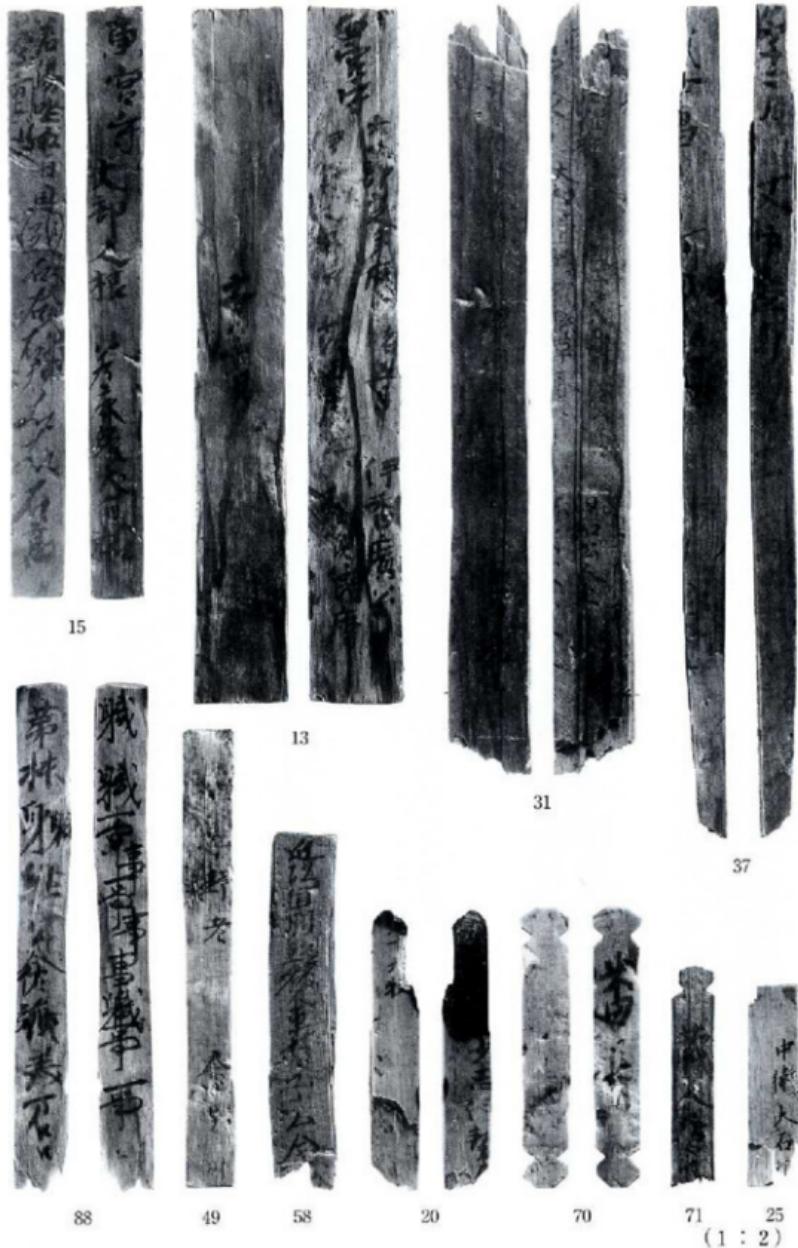
24



11



(1 : 2, 16のみ 2 : 5)





68

84

22

12

(1 : 2)



103

7

9

72



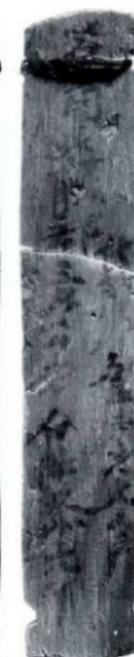
82



76



69



75



74



79



78



80



83



81



98



99



100a



97



(9 : 20, 98・99のみ1 : 3)



4



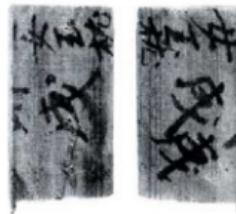
106



102



86



106



96



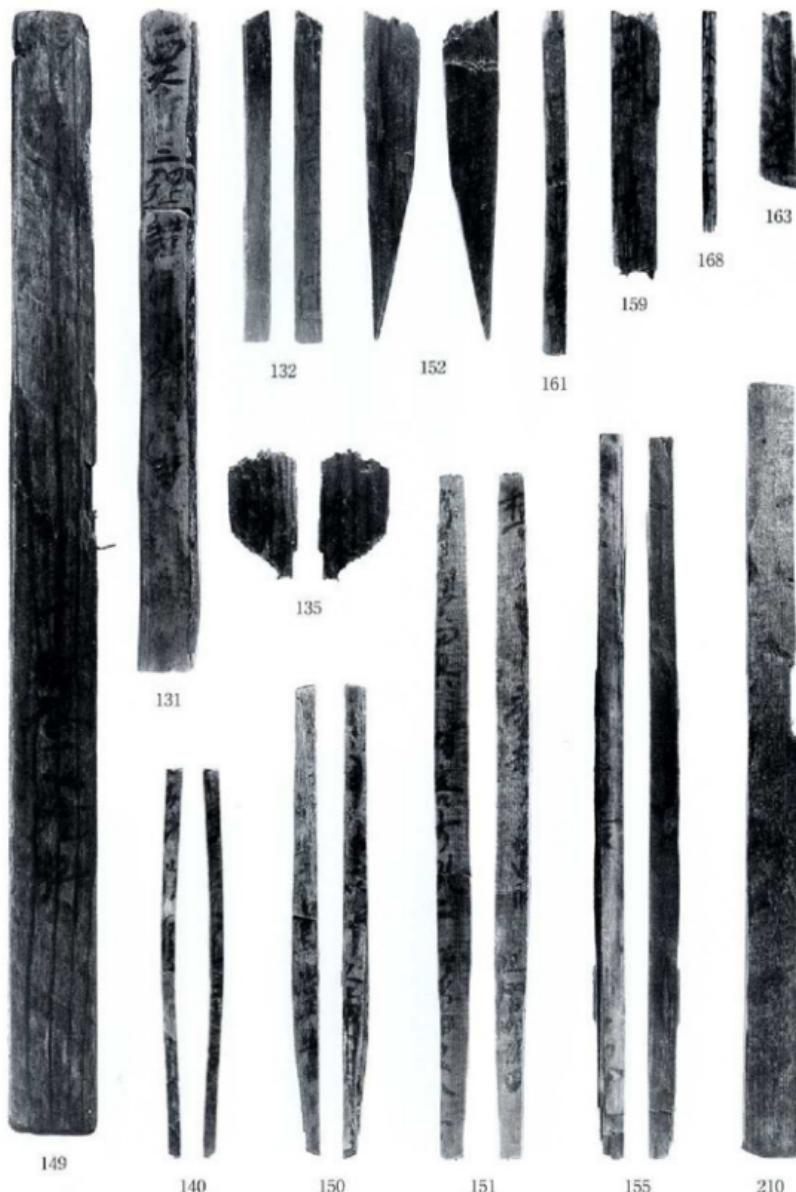
96



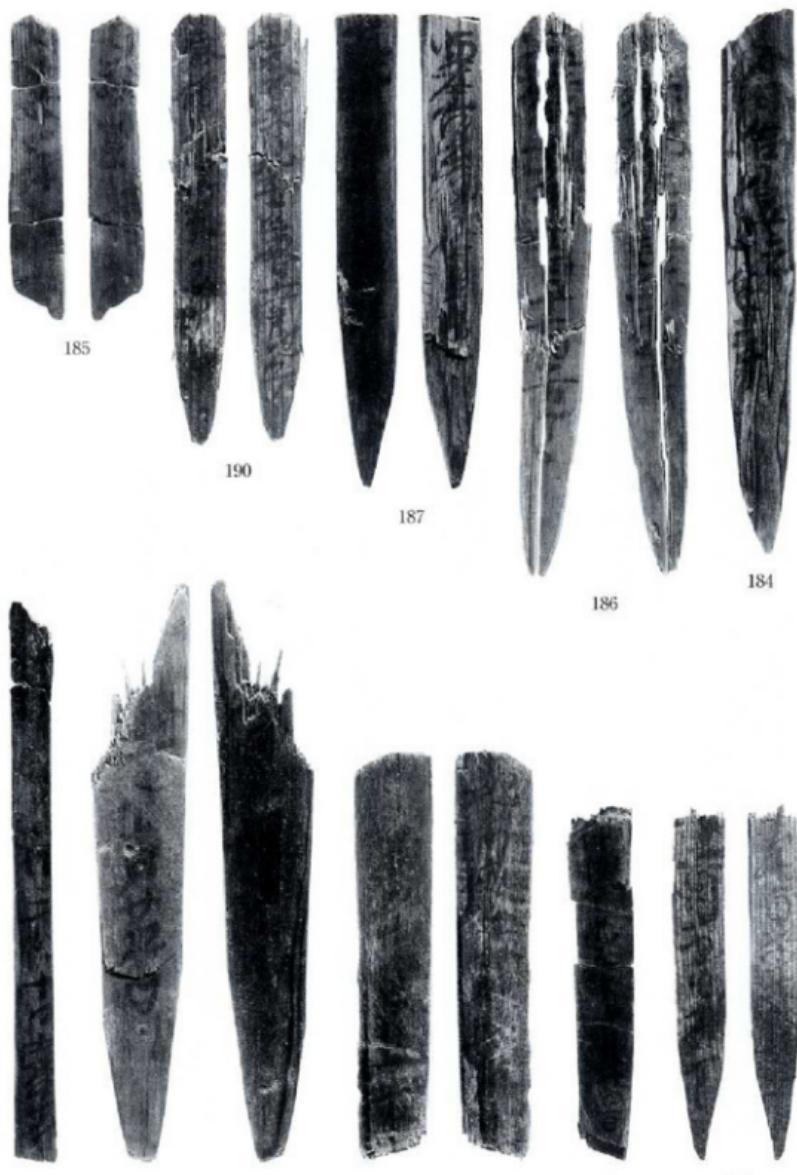
85



73



(1 : 2)



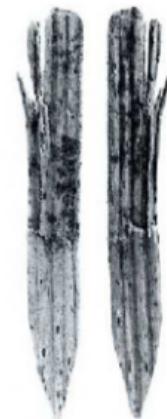
(2 : 3)



193



195



196



197



198



199

207



200



201



202



203



204



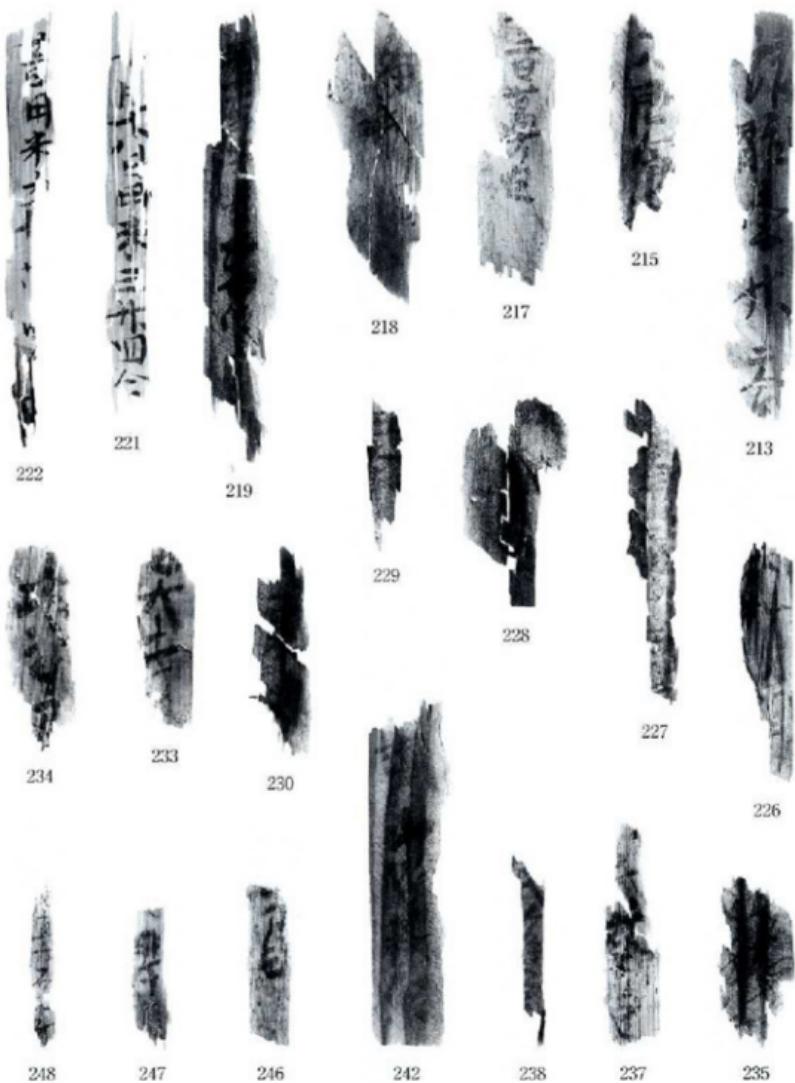
205



206



207







54



71



51 + 66



36



38

この概報には、先に公刊した『平城宮発掘調査出土木簡概報（三十八）』（一〇〇七年十一月刊）以後に平城宮跡から出土した木簡のうち主要なもの、及び同書に一部を報告した「西大寺食堂院木簡」の統報を収録する。

### 一、木簡の出土地点と状況

#### 第四二九・四四〇次調査（6AAF区）

（一〇〇八年一月～四月、一〇〇八年一二月～一〇〇九年一月）  
平城宮第二次大極殿院・東区朝堂院・朝集殿院の東側には、南北に大きく四区画の官衙ブロックが連なり、東方官衙と呼んでいる。この各官衙ブロックについて、六畳幅のトレンチを東西方向と南北方向に設け、遺跡の概要を把握するための発掘調査を北から順に進めており、第四二九次調査はその第二年次にあたる。調査面積は、計一三一四畠である。

東方官衙のトレンチ調査の最重要課題は、内裏の東を南流する基幹排水路SD二七〇〇の行方である。真南にあたる地点には朝堂院南方官衙が位置するから、SD二七〇〇はここまでは達せず、四ブロックのいずれかの境で東に折れ、東方官衙と東院の間の宮内道路の西側溝にある南北溝SD三四一〇に合流していたとみられる。

調査の結果、SD二七〇〇は、北から二つめの官衙ブロックにおいてもまっすぐ南流していることが明らかになった。埋土は砂礫で、整理中のため、次号以降に報告することとする。

かなりの水量があった状況を示す。内裏東側でみられたような堅固な石積み護岸ではなく、簡素な杭による護岸が残るだけである。今回南北トレンチ南端で東西方向の直線的な溝を検出したが、埋土は粘土と木屑の層を主体とし、SD二七〇〇とは全く様相を異にしている。このため、SD二七〇〇がここで東折したのか、それとも朝堂院東門から東に延びる宮内道路を越えて三つの官衙ブロックに達していたのかの最終的判断は、次の調査成果を俟つ必要がある。

SD二七〇〇の東西で官衙の様相は大きく異なる。西側では官衙の東西隔離といつぱいに展開する二棟の倉庫とみられる磚石建ち純柱建物を検出した。配置からみて大規模な倉庫群を構成していたとみられ、民部省廩院の可能性が考えられる。

一方東側では、密度の高い推立柱建物群を検出したが、トレンチ調査であるため、全体的な配置や遺構変遷を確定するには至っていない。その中で、調査区南部の官衙ブロック南辺に近い部分で、大規模な廐蓋土坑SK一九一八九の東端部分を検出し、多量の削屑を含む木屑層の存在を確認したため、遺構の全容を把握した上で、遺物の取り上げを図るべく実施したのが第四四〇次調査である。調査面積は、一部第四二九次調査と重複させた計二五五畠である。

木簡は、南北溝SD二七〇〇（第四二九次調査）から七七点（うち削屑五九点）、土坑SK一九一八九から約二〇〇点の他、南北トレンチ南端の東西溝SD一九一九三やその北の土坑からも出土した

南北溝 SD二七〇〇 南北方向の基幹排水路で、三時期の変遷を確認した。一番古い時期の溝Iは、両岸を径一〇 cm前後の木杭で護岸する。溝幅は木杭の心々で約二・八m、深さは現状で五〇 cm以上ある。堆積は下半が少量の木質遺物を含む砂層、上部が大きな瓦の破片を多数含むシルトで、木杭は砂層から出土した。その後溝幅を三・五m以上に広げ褐色の砂礫の堆積を主体とする溝II、さらに東側へ拡張し磚を主体とする溝幅最大三・八mの溝IIIを設けている。いずれからも多量の土器と瓦が出土した。

土坑SK一九一八九 東西約一一m南北約七mの規模の土坑で、深さは約一m、壁は比較的直に立ち上がる。東方向へ二回の拡張を経て前述の規模になったとみられる。レンズ状に堆積する木屑層は分厚いところでは厚さ五〇 cmにも達する。土坑上部の輪郭部分には炭層が埋つており、これは木屑層が次第に炭層に遷移し、土坑の壁面に沿つて立ち上がる様相を呈する。（のことから、この土坑は單なる廐棄土坑ではなく、平城宮では初めての焼却土坑の可能性が高い。周辺は一時期ゴミ処理場として機能していたとみられ、SK一九一八九の西にも同様の焼却土坑がさらにいくつか点在する（ただし、いずれも調査区内では完結しないため、掘り下げは行わず、遺物の取り上げは将来の全面調査に委ねることとした）。

SK一九一八九の木屑層からは木製をはじめ、槍頭、杓子、サイコロなどのさまざまな木製品、平城宮IVを中心とする時期の土器、瓦、種子など、多種多様の遺物が出土した。また、削屑も多量に含

まれているため、埋土は全て土ごと持ち帰り、整理室で遺物の洗い出しを進めている。埋土は遺物整理用コンテナで約二八〇〇箱にも及び、洗浄だけで数年を要するとみられるが、最終的には数万点を越え、これまでに平城宮跡で検出された木筒群を遙かに上回る規模の木筒群になるとみられる。洗浄で出土した木筒については、今後順次報告していく予定である。

なお、SK一九一八九やそれと一連の土坑に埋される形で、平城

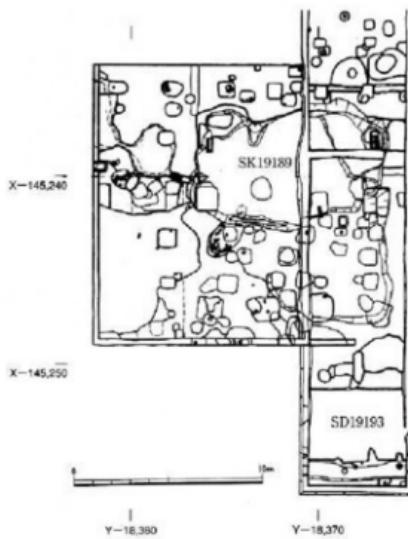


図1 第440次調査構造平面図

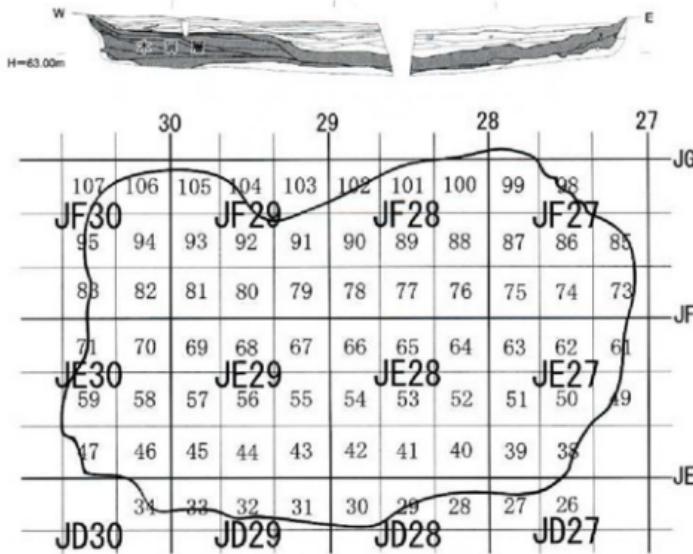


図2 土坑SK19189断面図(JFライン東西畦 北面反転)(上)と地区剖面図(下)

宮では初めてとなるトイレの可能性のある遺構を検出した。埋土の分析から人糞に由来する事が判明し、また瓜の種子や藤木も多数出土したが、糞溜めの可能性もあり、トイレとは断定できない。藤木には若干墨書の残るものがあり、木簡を二次利用したものと思われるが、文字として解釈できるものはなかった。その他の遺構の詳細については、「奈良文化財研究所紀要二〇〇九」を参照されたい。

第四〇四・四一〇・四一五次調査 (6月BSD区)											
(一〇〇六年五月~一〇月)											
平城京跡右京一、三坊八坪(西 大寺旧境内食堂院推定地)において実施した、マンション建設に伴う発掘調査である。木簡は井戸S E九五〇から出土した。持ち帰ったコンテナ約一二〇〇箱分の埋土の洗浄を進めた結果、木簡の全貌が明らかになつたので、前号刊行以来に明らかなようになった主な木簡を紹介する。遺構などの詳細については、前号を参照されたい。											
層位	IC70	IB70	I270	小計	計						
木簡	1	0	0	0	0	1	0				
井戸枠	1	0	0	0	0	1	0				
井戸枠内a	1	0	0	0	0	1	0				
井戸枠内b	2	23	1	1	0	3	24	27			
井戸枠内c	13	121	5	24	0	18	145	163			
井戸枠内c木屑層	19	55	1	6	0	20	61	81			
井戸枠内d	58	215	34	90	1	93	305	398			
井戸枠内d木屑層	243	982	121	345	0	364	1327	1691			
井戸枠内e	26	137	17	98	0	43	235	278			
井戸枠内f	12	11	4	2	3	19	15	34			
擾乱	9	3	2	1	0	11	4	15			
小計	384	1547	185	567	4	2	673	2116	—		
計	1931	752		6		—		2689			

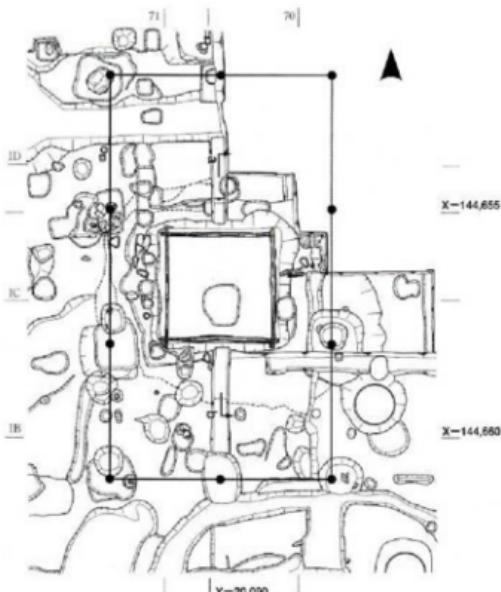


図3 SE950・SB951遺構平面図 1:120

X-144,656

X-144,658

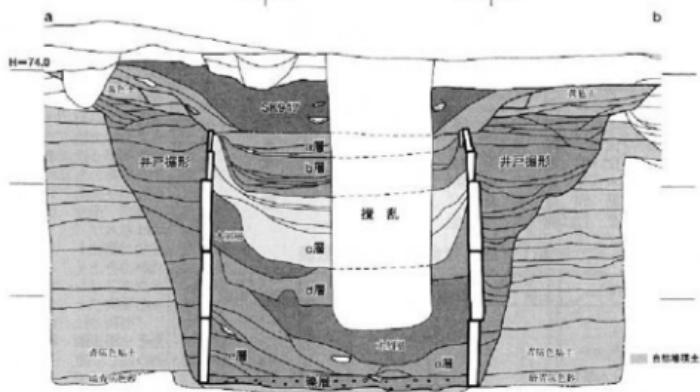


図4 SE950断面図 1:50

## 一、凡例

(一) 木簡は、内容により、文書、付札、その他の順に排列するの

を原則とし、便宜的に通し番号を付した。

(二) 積文の漢字は、概ね現行常用字体に改めたが、「龍」「廣」

「實」「麗」「唯」などについては右の字体を使用した。

(三) 積文に加えた符号は次の通りである。

・ 木簡の表裏に文字がある場合、その区別を示す。

・ 木簡の上端もしくは下端に、孔が穿たれていることを示す。

……

同一木簡と推定されるが直接接続せず、中間の一宇以上が不明なことを示す。

―― 木目と直交する方向の刻線が施されていることを示す。

□□□ 欠損文字のうち字数の確認できるもの。

□□□ 欠損文字のうち字数が数えられないもの。

□□□ 記載内容から、上または下に一字以上の文字を推定できるもの。但し、削屑については煩雑になるので、この記号は省略した。

―― 挹消部分の字画が明らかな場合に限り、原字の左傍に付した。

(×)

文字の上に重書きして原字を訂正している場合、訂正箇所の左傍に「×」を付し、原字を上の要領で右傍に示す。

〔〕

異筆、追筆。

〔〕

合点。

〔〕

校訂に関する註のうち、本文に置き換わるべき文字を含むもの。

〔〕

右以外の校訂註、及び説明註。

〔〕

編者が加えた註で、疑問が残るもの。

〔〕

文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

〔〕

カ

マ、

文字に疑問はないが、意味が通じ難いもの。

(四)

積文下の中綴に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記す(単位はmm)。欠損・二次的整形の場合、現存部分の法量

を括弧付きで示した。なお、長さ・幅は木簡の文字の方向による。

削屑については、法量の表記を省略した。

(五)

積文下の中綴に、現在の遺存の形態を示す型式番号を記した。型式番号は次の通りで、四桁の数字を用いているが、本

概報では時代を示す千の位を省き、下三位で表した。なお、

幅とは、木簡を木口方向に置いた時の上下両端をいう。

6011型式

長方形の材のもの。

6015型式

長方形の材の側面に孔を穿つたもの。

6019型式

一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などによって、原形の

失われたもの。原形は6011・6015・6032・6041・6051型式のいずれかと推定される。

6021型式 小型矩形のもの。

6022型式 小型矩形の材の一端を圭頭にしたもの。

6031型式 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。方頭

・圭頭など種々の作り方がある。

6032型式 長方形の材の一端に左右に切り込みを入れたもの。

6033型式 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

6039型式 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6031

・6032・6033・6043型式のいずれかと推定される。

6041型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状に作ったもの。

6043型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にし、左右に切り込みをもつもの。

6049型式 長方形の材の一端の左右を削り、羽子板の柄状にしているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6041・6043型式のいずれかと推定される。

6051型式 長方形の材の一端を尖らせたもの。

6059型式 長方形の材の一端を尖らせているが、他端は折損・腐蝕などによって原形の失われたもの。原形は6033・6051型式のいずれかと推定される。

6061型式 用途の明瞭な木製品に墨書きのあるもの。( )内に製品

名を註記した。

6065型式 用途未詳の木製品に墨書きのあるもの。

6081型式 折損・割截・腐蝕その他によって、原形の判明しないもの。

6091型式 削屑。

括弧内の番号は、二次的整形の場合に推定できる原形の型式番号を表す。

(六) 稲文下の下段に出土地点を示す小地区名(アルファベット・数字)を記した。Zは地区不明を示す。複数の地区から出土した断片が接続した場合は、地区名を+で併記した。なお、

第四四〇次調査では、土坑SK一九一八九の遺物の取り上げを特に「H」のグリッドを設定して行つたため、小地区名の次

に「—」で—mグリッド名の数字を併記した(図2参照)。

(七) 稲文の出土地点の下に付した[\*]印は、口絵写真に写真を掲げた木簡を示す。例えば、「\*2」は「図版二」に対応する。

本書の作成は、都城発掘調査部史料研究室が行つた。木簡の稲文には、渡辺晃宏・馬場基・山本栄・浅野勝介・桑田訓也があたり、古藤真平・井上幸がこれを補助した。編集に際しては、椿本有貴江・小池綾子・杉本敬子・寺尾淳子・松本大輔・南島真理子各氏の協力を得た。写真は企画調整部写真室の中村一郎の撮影による。本書の編集は渡辺晃宏が担当した。

## 第四一九・四四〇次調査(6AAA1区)

土坑OK一九一八九

1

・ 素福貴麻呂  
私船守

小長谷麻呂

・ □具録如件謹以申聞謹□

(96)・(58)・9 011 JE27-63 \*1

3 左衛士府宿奏 合九十三人

少尉正六位上安□  
大志正六位上□

(355)・(31)・6 081 JE29-43 \*2

2

□□

官部名足

伊部諸國

正八位下礪部石足

4

・ 謹解 申請出舉錢事 □□□  
〔合丸〕・ □ |月廿四日正四位下行右大井兼内□  
路 相知路並倉路並倉□

(91)・(63)・6 011 JE28-64 \*1

(243)・(23)・3 081 JF28-77 \*8

5 右兵衛少尉路豊長我既□

当番兵衛等平者錢三百文取沽遣引  
〔解丸〕退番兵衛□留辛苦□

・ □請錄給事者内召給可申故波身死去在乎米

・ □後故人□不得 又一路豊長波道 □ 徒在之替者藤原家子物知□給止申

(23+227+382)・33・5 059 JF28-76+JF28 \*2

(1・2ハ、木簡ヲ一次の二分割・整形シタモノハ、略同大  
ノ断片ヲ挿ンテ、ヨノ順ニ連続スルト考エラレル。)

6	・内厩寮移 中務省	□□	11	・内運物 寝九枚	折腰十枚 細腰五枚 錠一具
7	・請芻捌面	□城部毛三為 道嶋毛二為 毛三為 毛二為	12	・燈十三具 燈台五枚 副油瓶一 口	黄一隻枚 赤短一枚 (4)
8	・十四日不直若宮老子	日夕	8	・行田口 [弟麻呂] 八年十一月十一日石山御嶋	(213)・(13)・3 081 JF28-88 *1
9	・廿日不 泰人成 高□□	久米牧夫	9	・(214)・45・3 019 JE30 *5	(214)・45・3 019 JE30 *5
10	・太道道月是是是是是	寶龜二年四月十四日 番長山代真勝	10	・(215)・1 011 JE28-54 *1	・(215)・1 011 JE28-54 *1
11	・廿日不 次田廣足	202・40・2 011 JE28-54 *1	11	・(216)・1 011 JE28-66 *5	・(216)・1 011 JE28-66 *5
12	・西宮守 六人部斐多麻呂	13	・西宮守 六人部斐多麻呂 楢五月 伊香廣公	・(217)・1 011 JE28-76+JF28-89	・(217)・1 011 JE28-76+JF28-89
13	・伊賀人麻呂 茨田廣足 駿負摩	14	・西宮 山辺奥人 猪□人麻呂 大部淨人	・(218)・1 011 JE27-63 *4	・(218)・1 011 JE27-63 *4
14	・大部赤麻呂 田部豐成 酒部三方	15	・(219)・1 011 JF28-76+JF28-89	・(219)・1 011 JF28-76+JF28-89	・(219)・1 011 JF28-76+JF28-89
15	・聚田人主	16	・(220)・37・6 019 JE28-66 *5	・(220)・37・6 019 JE28-66 *5	・(220)・37・6 019 JE28-66 *5
16	・(160)・(18)・4 019 JE28-54 *5	17	・(221)・1 011 JE28-54 *1	・(221)・1 011 JE28-54 *1	・(221)・1 011 JE28-54 *1
17	・(130)・(7)・2 081 JE27-51	18	・(222)・1 011 JE28-54 *1	・(222)・1 011 JE28-54 *1	・(222)・1 011 JE28-54 *1



[近衛少カ]  
□□□外從五位□ □

・□□□□□□□  
丸部昨麻田

(213) · (8) · 5 081 JF29—81

□佐首不 泰  
〔廣津カ〕

(255) · (28) · 3 081 JE28—66

・府生□□首  
□ □

□□□□□□□  
□□□□□□□

□

・□□□「□□」四人紀將監唐司 「□」  
□年一月十四日近衛金刺老

(163) · (20) · 4 081 JF28 \*5

・主 □ 衛十□「人」  
〔中カ〕

(253) · (20) · 5 081 JE29—55

□

□

- 10 -

・□年一月十四日近衛金刺老

将臨□

(104) · (40) · 8 081 JE29—44

・□ 酒同別當

(188) · 18 · 4 019 JE28—54

- 10 -

・□三人 右衛士四人 中衛四人 近衛三三人□□□  
・□

・□□□□□□□位下 橋井連根主  
〔中カ〕

(326) · (28) · 5 081 JE28—40 \*3

・□ □

- 10 -

(147) · (5) · 3 081 JE29—67

中衛大石嶋

(72) · (21) · 2 081 JE27—51 \*4

從七位

(72) · (14) · 2 081 JE29—67

34	33	32	31
□里人 大伴牛主 長谷部口万呂 安曇秋長	□里人 大伴牛主 長谷部口万呂 安曇伊世万呂 矢田部山守 大伴乙万呂	□里人 大伴牛主 長谷部口万呂 安曇伊世万呂 矢田部山守 大伴乙万呂	□里人 大伴牛主 長谷部口万呂 安曇伊世万呂 矢田部山守 大伴乙万呂
〔府生力〕 四人官人 一人府生 □□從七位上高屋真口	〔府生力〕 四人官人 一人府生 □□從七位上高屋真口	〔府生力〕 四人官人 一人府生 □□從七位上高屋真口	〔府生力〕 四人官人 一人府生 □□從七位上高屋真口
〔多力〕 □紀伊加麻呂	〔多力〕 □紀伊加麻呂	〔多力〕 □紀伊加麻呂	〔多力〕 □紀伊加麻呂
□朝臣 口上高麗朝臣鈴麻呂	□朝臣 正八位下車持川口	□朝臣 正八位下車持川口	□朝臣 正八位下車持川口
□續門万呂 □□長谷部淨成	□續門万呂 物部□□ 長谷□□	□續門万呂 物部□□ 長谷□□	□續門万呂 物部□□ 長谷□□
(178) · (20) · 5 081 JE29—54	(328) · (20) · 7 081 JE29—69 *2	(327) · (50) · 5 081 JE29—67	(270) · (28) · 5 081 JE29—90 *4
36	35	36	35
神沙弥 〔多力〕 一 大 初 位 上 台 忌 十 廣 額 一 〔葵 咲 四 月 〕	神沙弥 〔多力〕 一 大 初 位 上 台 忌 十 廣 額 一 〔葵 咲 四 月 〕	神沙弥 〔多力〕 一 大 初 位 上 台 忌 十 廣 額 一 〔葵 咲 四 月 〕	神沙弥 〔多力〕 一 大 初 位 上 台 忌 十 廣 額 一 〔葵 咲 四 月 〕
子十一月 大部益 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕	子十一月 大部益 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕	子十一月 大部益 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕	子十一月 大部益 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕 〔山力〕
(266) · (10) · 6 081 JE30—70	(290) · (16) · 3 081 JE29—44 *4	(266) · (10) · 6 081 JE30—70	(290) · (16) · 3 081 JE29—44 *4

38	<ul style="list-style-type: none"> <li>五百依 宅部系足</li> <li>真口 若湯坐人□</li> <li>叶口</li> <li>叶大口 麻</li> <li>[セ音] [セ音] [セ音]</li> </ul>	(124) · (39) · 4 081 JF27—87	42	安信 高橋	(176) · (29) · 3 081 JD28—30
39	<ul style="list-style-type: none"> <li>宇治息鳴 若麻続大甘 □</li> <li>廣浜 □ 道 □</li> <li>廣浜 □ □ □</li> <li>公カ</li> <li>苦口 □</li> </ul>	(192) · (24) · 2 019 JF28—78	43	赤染味鶏	(85) · 20 · 1 019 JE29—55
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>村主此老 中臣□□</li> <li>能登子者 国真国 □</li> </ul>	(235) · (15) · 3 081 JF27—87	44	穴師省奈麻呂 大宅	(170) · (21) · 3 081 JE29—67
41	<ul style="list-style-type: none"> <li>多米国人 茂廣多</li> <li>高安乙人 太口 [那カ]</li> </ul>	(155) · 41 · 2 081 JE28—66	45	宇治部纏万呂	
			46	景栗柄	(129) · 24 · 5 019 JE29—68
			47	大伴秋田 大	(124) · (21) · 2 081 JE27—63
			48	川勾廣公 畑泰	(118) · (21) · 5 081 JE29—44
				畔田禪福人 畑田福人 禪福	
				出舉 □□□□□□	
					167 · 12 · 3 051 JE28—54

49	下毛野老	秦與川	160・(18)・5 081 JE29—56 *4	56	□□□人□	物部常□	182・28・2 011 JF28—66
50	玉手牛義	右三人	(227)・(30)・7 081 JE28—64	57	矢田都常人	(102)・(16)・4 081 JE29—68	
51	丹波三刀良□	□	(213)・(48)・8 011 JF28—77	58	近江國[州カ]野郡人車持子公今□ (アハ)	(122)・22・8 019 JF28—76 *4	
52	□部□	長淨足	(114)・57・2 081 JE28—40	59	・□道主	(100)・(21)・4 081 JF27—75	
53	賴田都宿林真□		(79)・27・1 019 JE28—42	60	・□□□		
54	□[綱カ] 穗積		(71)・(13)・3 081 JE29—44	61	・家万呂 ・吉萬呂 ・姓名[勿元カ]	(56)・(56)・9 011 JE28—66	- 13 -
55	・水取継成	□□			□姓名[勿元カ]	355・33・2 011 JD28—30	
	・瓜藤垣豊		(144)・(28)・8 011 JE29—57		(其裏トモ天端逆ノモノモ合メ削リ残リノ墨痕多數アリ。)		

62

□ □  
刀万四  
人五月 □

(123-100-11) 065 JF28-77

66

• □ □ □ 九口 雅坏 □  
□ □ □ □ 六十 (147) · (12) · 4 081 JE29-43

63

• □ □ [飯力]  
□ □ 艹日一解三斗八升  
□ □ □ □

廿八日 六斗八升  
□ □ □

• 門々井雜物鋪帳  
景雲四年八月

(80) · 27 · 4 061 (御藏書) JE28-54 \*5

67

雀朏筆 斑竹筆

(146-34-8) 051 JE28-77

• □ □ [陪從 人力]

(235) · (22) · 6 081 JF29-31

• 若狹國遠敷郡 佐分郷三主三家人大人  
二〇公常石海藻六斤

• □ 受十三解添盛伍升  
合 廿八解捌斗伍升

(175) · (24) · 2 081 JE28-40

• □ 荒嶋

(169-31-7) 031 JE28-54 \*6

65

• □ 別六匁 □  
□ □ □ □ □ □ □米 □ □ □ 上番井四  
□ □ □ □ □ □ □ [八匁]

(288) · (16) · 5 081 JE28-42

71 藏人官人

• 番量

• □ □

(103-17-2) 031 JF29-80 \*4



87

衛家家  
行

200·98·7 011 JF28—89+JF28—101 \*1

88

卷之三

第□身繼守□佐美万呂  
佐弥(重著)

(184) · 20 · 4 019 JE28-40 \*4

68

支文女□文□□□  
其舊論林公雙養家家牒

謂直作所時為

254·41·8 065 JF29—91

(表裏ト子他ニモ多故留着アリ。)

90

・□□布カ  
・□心給布十二端  
・□道道道道道道道道

(172) · (21) · 2 081 JE27-51

16

• 賽 賽 賽 賽 張  
□ □ □ □ □

(149) : (9) : 4 081 IE28-78

92

□□有物□□□□物□□  
□入暮晚帆為鳥物□□

口日宀人部乙未呂  
口山(重音)

278-(40)-3 065 JE29-43

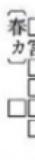
93

七

·十三

(158) : (25) : 11 081 JF28-77

「成」□〔西々〕  
〔春カ〕



(以下<sup>101</sup>マサハ 檜原ニ墨跡ノアルモノ。同一個体ヲ構成スル  
各ニハアルワズタトノ通シ記号ヲ付シ、各「ト」ノ法量ヲ  
併記スル。)



(128)・(27)・2 081 JF28—78

a. 池 許曾部家庭庭庭

文司□無无□

(105)・33・4 019 JE27—51

b. 池 池泡田泡泡  
許曾部許家泡泡

行□

(105)・33・4 019 JE27—51

c. 池 池泡泡泡泡  
泡泡泡泡泡泡

神農皇  
・ 皇農祥

(68)・(14)・4 081 JE28—64 \*8

c. 池 池泡泡泡泡泡  
泡泡泡泡泡泡

97 a. □早令官得  
〔下カ〕



(219)・(32)・1 061  
b □m□□

99 □麻麻呂麻呂麻呂

(219)・(31)・1 061  
(232)・(32)・1 061  
(202)・(32)・1 061

(8+回一個体・繪原ノ可能性トシ。)

d □人世何 (裏回)  
e □ (裏面)  
(234)・35・6.3 061 JF28—76+JF28—77 \*7

100 a. 紙織田麿原朝臣  
・ 織織織織織

(170)・31・1 061 \*7





				091 JE29—56				
122	123	124	125	126	127	128	129	130
葵栗柄	大夫藤原	正六位下勳五等	宝龜	羈繩羈繩羅	南北溝S口二七〇〇	天平 □□三年	□□高官廢足	□□嘲丘口
					091 JE28—42			
					091 JE29—56			
					091 JP27			
					091 JP27			
					091 JP27			
					091 JP27			
					091 JK42			
					174·34·2 011 JK42 *1			
					(48)·(10)·1 081 JJ42			
					(116)·(11)·2 081 JK42+JJ42			
					091 JK42			
						西大寺三ノ綱解申請申事		
						(231)·21·16 019 IC70 d *9		
						西大寺三ノ綱		
						(120)·(10)·3 081 IC70 d *9		
						[東面造] □□□		
						(65)·(6)·4 081 IB70 z		
						東面		
						(52)·17·2 019 IC70 c		
						西市[今方]		
						(47)·(24)·3 081 IC70 d *9		
						□通上		
						(61)·(6)·4 081 IB70 d		

第四〇四次調査(B66D区)

井戸SE九五〇

- 20 -

137	・ 麻婆□ … □ 売升 右津使供料 七月十六日 ・ □ … □ (86+254) · (11) · 3 081 IB70 d	142	・ 舶 ・ □ [寺カ] (24) · (9) · 4 081 IC70 d
138	・ 白米伍合 □□□□□□□ ・ □ [寺主] 「□□」 可信「□□」 如「□□」 信「□□」 〔信カ〕 (187) · (13) · 4 081 IB70 d	143	・ 舶 [老カ] ・ □□ (28) · (11) · 3 081 IC70 d
139	・ 舶 売升五合□ ・ □□ 寺主□ 可信 都媒□ (199) · (13) · 4 081 IC70 d	144	・ [搁升カ] 〔搁升カ〕 (66) · (7) · 3 081 IC70 d
140	・ [飯カ] □□□□□ 一月□七日 [別当惣カ] ・ □□□状カ 「關田」 (138) · (5) · 2 081 IC70 d *9	145	・ 舶 売升 □ ・ □□ (110) · (7) · 4 081 IC70 d
141	・ [飯] □□□□升カ □□□□□ (136) · (6) · 4 081 IB70 d	146	・ □□□同 □□ □ □ □ 僧 □ (391) · 39 · 7 081 IC70 d

152

・  
□  
□□□食人□  
□  
□津女

(116) · (19) · 3 059 IC70 d \*9

・  
□  
□□□米  
□  
□

(64) · (9) · 2 081 IC70 d

148

・  
□□□食人口  
□  
□津女

・  
□  
□

(51) · (7) · 3 081 IB70 n

・  
□  
□  
一船參人絵料  
319 · (16) · 9 081 IB70 d

・  
□  
□  
寺舟

(101) · (14) · 2 081 IC70 d

149

・  
□  
□  
□(人)  
□各四人□□□

・  
□  
□  
寺舟

(285) · (12) · 3 019 IC70 d \*9 - 22 -

150

・  
□□□船

・  
□  
□  
可便

(145) · (13) · 4 081 IB70 d

151

・  
和部□  
□(御)  
□具□  
□客□□□  
□近□  
□环□

・  
□  
□  
□(寺)  
□(寺)  
□(寺)

(145) · (9) · 2 081 IC70 d

152

・  
□  
□□□(米)  
□(米)

(242) · (12) · 4 081 IC70 + IB70 d \*9

153  
・  
□  
□

(116) · (19) · 3 059 IC70 d \*9

・  
上座

(64) · (9) · 2 081 IC70 d

154

・  
□  
□

(101) · (14) · 2 081 IC70 d

・  
□  
□  
寺舟

(101) · (14) · 2 081 IC70 d

155

・  
□  
□  
□

(145) · (13) · 4 081 IB70 d

156

・  
□  
□  
□(寺)  
□(寺)

(145) · (13) · 4 081 IB70 d

157

・  
□  
□□□(舟)

(145) · (13) · 4 081 IB70 d

158

・  
上座

(64) · (9) · 2 081 IC70 d

158	・ 上□□ 可信カ」	・ ■代□□	・ ■代□□	・ ■	・ ■	・ ■	・ ■
	□□	□□	□□	(兩面ノモ重書多數アニ。)	(62)・(22)・2 081 IC70	d	
159	「□迷」 可能「迷惑」	(97)・(18)・5 081 IB70	d *9	165	・ □迷□ [登カ]	164	・ ■代□□
	□	□	□	□	□	□	□
160	・ □ □	(93)・(6)・3 081 IC70	d	166	・ □人	(50)・(6)・3 081 IC70	d
	〔可信 懈□〕 □	□	□	□	□	□	□
161	□ 可能「迷惑」 少帯主	(124)・(8)・2 081 IC70	d *9	167	□ □口米	(39)・(7)・2 081 IB70	d
	□ □ □人迷惑□	□	□	□	□	□	□
162	・ □ □	(90)・(6)・3 081 IC70	d	168	□□□□ [酒參升カ]	(50)・(6)・5 081 IC70	d
	□	□	□	□	□	□	□
163	〔五口四代カ〕 「安豐」	(63)・(14)・3 081 IC70	d *9	170	・ □伍升	(24)・(4)・4 081 IB70	c
	□□□□□	□□□□□	□□□□□	□	□	□	□
				- 23 -			

171	□一升	(55)・16・3	081	1C70	e	178	・□	□八四日
172	・□升半	□□□				179	・□	□
173	□四合					180	・□	□
174	□□□□□□□	(165)・(5)・4	081	1C70	d	181	・□四合	(141)・(16)・5
175	〔三四六四九〕	(125)・(10)・5	081	1C70	d	182	〔十七九〕	081
176	〔釋九〕	(153)・(12)・3	081	1B70	e	183	十一五十九□	1B70
177	・□□	(46)・(6)・5	081	1C70	d		・越前国足羽郡野田郷[十三]	d
	・田代□□田□□□	(109)・20・3	019	1C70	e		・□□白米五斗延暦五年十一月	
	(135)・(7)・4	081	1B70	d			(95)・18・1	

184	<ul style="list-style-type: none"> <li>人戸<small>〔同カ〕</small></li> <li>告刀自女<small>一斗</small></li> <li>口八選三斗</li> </ul> <p>(145)・19・5 059 IC70 d *10</p>	189	<ul style="list-style-type: none"> <li>口庄白米五斗</li> <li>〔年カ〕</li> <li>六月五日吉万呂</li> </ul> <p>(96)・15・4 059 IC70 d *10</p>
185	<ul style="list-style-type: none"> <li>口庄黑米五斗</li> <li>〔延カ〕</li> <li>口延十一月十八日</li> </ul> <p>(82)・15・3 081 IB70 d *10</p>	190	<ul style="list-style-type: none"> <li>西大寺赤江北庄延曆十一年鮑子</li> <li>秦淨人黑米五斗</li> </ul> <p>116・11・4 051 IB70 d *10</p>
186	<ul style="list-style-type: none"> <li>西大赤江南庄黒米五斗</li> <li>延曆十一年十一月十一日吉万呂</li> </ul> <p>151・19・3 051 IC70 d *10</p>	191	<ul style="list-style-type: none"> <li>口福傳</li> <li>〔延曆十一カ〕</li> <li>口口口年十月廿四日</li> </ul> <p>155・28・5 051 IC70 d *10</p>
187	<ul style="list-style-type: none"> <li>西大赤江南庄黒米□</li> <li>〔延カ〕</li> <li>■上</li> </ul> <p>126・16・5 051 IC70 d *10</p>	192	<ul style="list-style-type: none"> <li>口</li> <li>延曆十一年十一月十一日□□</li> </ul> <p>(101)・(6)・5 081 IC70 d *11</p>
188	<ul style="list-style-type: none"> <li>口江南庄カ</li> <li>延曆十口一カ</li> </ul> <p>(51)・19・5 059 IB70 d</p>	193	<ul style="list-style-type: none"> <li>口</li> <li>白米五</li> </ul> <p>(58)・22・3 039 IC70 d *11</p>
194	五斗一升六合	194	<ul style="list-style-type: none"> <li>五斗一升六合</li> </ul> <p>91・13・4 051 IB70 d *11</p>

205	195	五斗 <small>升六合</small>	73·14·3 051 IC70 d *11	203	五斗 <small>升六合</small>	
196	196	五斗 <small>一升</small>	92·12·4 051 IB70 c *11	204	十日 <small>廣女</small>	(91)·16·4 059 IB70 d
197	197	五斗 <small>升六合</small>		205	四斗九升 <small>六合</small>	(79)·13·3 051 IB70 d *11
198	198	五斗 <small>升六合</small>	(115)·15·3 059 IC70 d	206	三十六斗 <small>少</small>	(75)·(6)·5 081 IC70 d
199	199	五斗	(39)·19·2 039 IB70 d	207	口大口	101·12·3 033 IC70 d *11
200	200	五斗 <small>升六合</small>	(24)·19·2 019 IB70 d	208	口通口	
201	201	可信「常深」	117·15·2 051 IB70 d *11	209	口通口	
202	202	五斗	132·12·3 051 IB70 d	210	并見合見	
		五斗	(41)·15·1 011 IC70 d	211	見見合見	
				212	見見見見	
				213	見見見見	
				214	見見見見	
				215	見見見見	
				216	見見見見	
				217	(217)·(58)·4 081 IC70 d *11	



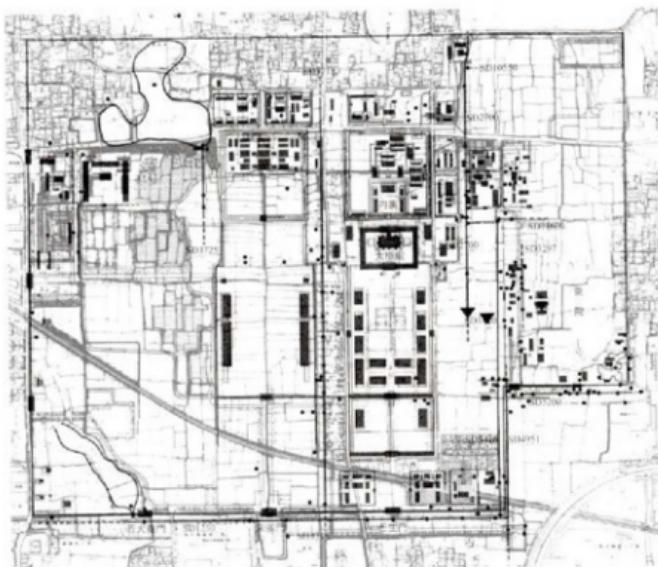




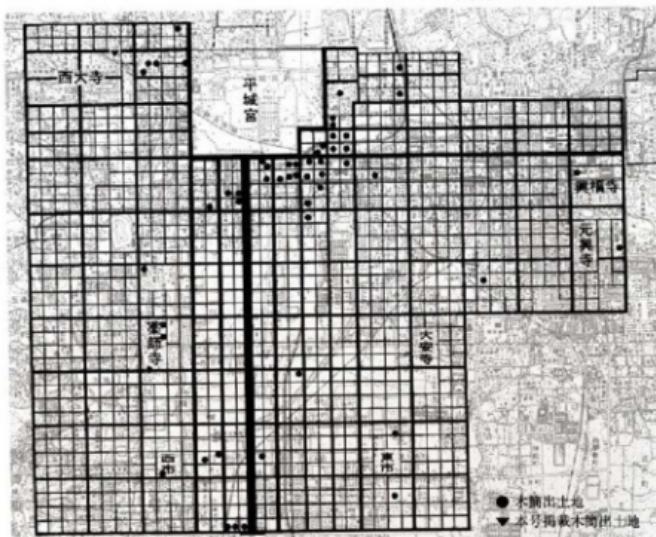


301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291
壱 □	□ [酒 ガ]	惠 □	女 □	可 □	石 □	〔御 力〕 □ □	蔓 □	太 □	量 □ □	里 □ □
091	IC70	d	c	c	d	b	d	d	d	d
091	IC70	d	d	d	d	a	d	d	d	d
312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302
道 □	科 □	東 □	東 □	藥 □	華 □	華 □	合 □	大 □	口 □ □	〔權 カ〕 □ □
091	IC70	d	d	c	d	d	d	d	d	d
091	IC70	d	d	c	d	d	d	d	d	d
091	IC70	d	d	c	d	d	d	d	d	d

『平城宮発掘調査出土木簡概報』(三十八)訂正



平城宮木簡出土地点図 ● 木簡出土地  
▼ 本号掲載木簡出土地



平城京木簡出土地点図

二〇〇九年十一月二十五日印刷  
二〇〇九年十一月三十日発行

平城宮発掘調査出土木簡概報（三十九）

編集・発行 独立行政法人国立文化財機構

奈良文化財研究所

〒630-8577  
奈良市二条町一十九一

TEL 0742-130-6837  
FAX 0742-130-6830